

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	2023 佐久っとサイクル推進プロジェクト
事業主体 (連絡先)	佐久地域自転車活用推進協議会
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,525,500 円 (うち支援金 : 2,503,000 円)

事業内容

- ① 市民参加型のガイドサイクリング+健康セミナーの開催 (6回開催を計画) 実績 : 5回実施
- ② ホームページの制作とプロモーション素材の収集
実績 : 写真素材を収集したものの、HP の制作ならびに SNS の開設まで至らなかった。
- ③ 健康づくりをテーマに活動する他団体との連携。
実績 : 地域の社会福祉協議会と意見交換を開始しました。
- ④ 八ヶ岳一周サイクリング (仮) に向けた検証とテストマーケティングの実施
実績 : 4 回のモニターサイクリングを通じ、サイクリストの受け入れマニュアルを作成しました。

事業効果

健康サイクリングにおいては、地域住民や隣県からの参加をいただき、ガイドと健康指導士のもと安全に有意義な活動が出来ました。移住者や若年層の参加もあり、自転車を活用した健康意識の向上に寄与できたと思います。

八ヶ岳一周サイクリングに向けては、モニターツアーに専門家をはじめ他府県からもサイクルツーリズムに精通した多くの関係者に参加いただき有意義な実走と意見交換が出来ました。整えたマニュアルは今後の活動のひとつの指針になることと思います。

今後の取り組み

健康サイクリングにおいては、地域ガイドを担える人材が育ってきましたので、連携を始めた社会福祉協議会と意見交換をしながら、社会福祉協議会のなかの健康増進プログラムとして若年層をターゲットにした取り組みへ発展させていきたいと考えます。

八ヶ岳一周サイクリングにおいては、既に始まっている山梨県と静岡県の実践 (ぐるり八ヶ岳サイクルツーリズム推進協議会) を参考に、八ヶ岳側でも北杜市 (山梨県) や諏訪地域との連携を深め専門の協議会の設立に向けて準備を進めたいと思います。



【健康サイクリングの様子】

【目標・ねらい】

- ① 私生活へ自転車の活用推進
- ② 健康づくりへの意識向上
- ③ 関係人口づくり
- ④ 地域の魅力再発見と発信

※自己評価 【B】

【理由】

計画した事業は概ね出来たものの、それを発信するための HP や SNS の開設ができず、せっかくの取組みを広く広報出来ていませんでした。結果、地域の魅力を再発見しても、それを発信することが出来ていなかったため。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「つくろう! “舞台芸術の日”」こども実行委員会事業
事業主体 (連絡先)	佐久地域“舞台芸術の日”運営委員会 (佐久市岩村田 1545-1-201)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,678,503 円 (うち支援金: 1,207,000 円)

事業内容

- ① 佐久地域の子どもたちに身近に感じられ、子どもたちが無料で観覧できる舞台芸術公演の開催。
10月28日 佐久市コスモホール小ホールにて人形浄瑠璃文楽座による文楽公演+レクチャー・ワークショップを開催。
公演・ワークショップとも満席
- ② こども実行委員会を組織
月に1回(6月~2月)佐久地域の7校15名の子どもたちとこども実行委員会を開き、公演のテーマや宣伝方法、公演当日の受付等の仕事・掲示物を準備。こどもたち自ら様々な商店や公共施設にチラシ配架をお願いしたりラジオ出演して公演を宣伝した。

事業効果

- ① 開催初年度であるため前年度比はないが、目標としていた来場数350人を超え360人の来場のうち、子どもの割合は6.4割だった。
- ② 公演後の来場者アンケートでは、9.5割をこえる人が「また来年もこのような公演をやってほしい」を選択した。また、見たことのない「文楽」に触れてその魅力を発見し、他の公演も見てみたいという声が多かった。
- ③ こどもスタッフたちは、チラシ配下のお願いに行ったり当日受付をしたり、大人のような仕事のできたことに喜びを感じたようで、公演を運営した実感を持った。

今後の取り組み

来年度も舞台芸術公演・ワークショップ・こども実行委員会という3本柱で事業を継続する。来年度はより多くの方に機会を提供できるよう会場を大きくし定員を増やす。
また、こどもスタッフの今年度の意見を鑑み、より一層子どもスタッフに任せる部分を増やしていきたい。早い段階で公演内容を理解し宣伝活動に活かしていくことと、ワークショップの内容に関してアーティストとこどもスタッフがやりとりして内容を決めていけるようにする。子どもたちが共に未来を担う仲間として一つの企画を作り上げる体験を経て、より具体的に自分達の未来の町を作っていくイメージを持ってもらいたい。



【文楽公演後の人形体験】

【目標・ねらい】

- ① 文化施設(コスモホール)への子ども来場数増加
- ② 公演来場者の満足度
- ③ こども実行委員の満足度

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・公演もワークショップも満席の来場者を迎えられ目標を上回った
- ・公演の来場者のほとんどがまたやってほしいと選択した
- ・予想を上回って子どもスタッフが自主的に活動した

R5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ミヨタデザイン部のデザインワーク
事業主体 (連絡先)	ミヨタデザイン部
事業区分	(3)教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,050,540円(うち支援金:4,552,000円)

事業内容

メディア・デザインワークショップ・イベントによる3つの軸となる地元コンテンツの魅力・創出活動。町のコンテンツづくりには、【機会・情報・場所】となる土壌づくりが必要でありながら有形文化財の少ない御代田町において、人知的財を活かす土壌を醸成し、町の魅力づくりと活性化につなげていく。

① 情報発信コンテンツ・メディア発信（通年毎月発信）

ミヨタデザイン部による毎月のワークショップやフリーマーケットの情報発信を行った。

② ワークショップ

①ミヨタデザイン部によるローカルワークショップ

②デザインワークショップ

御代田にゆかりのある町内外の講師を交え、ローカルの面白さ、そして町外からの関係人口創出が実感できた。またMIYOTA DESIGN WEEKEND期間中にミヨタデザイン部による職能を生かしたデザインの面白さを伝えるワークショップを開催。ものづくりから蒸留、文字を書くなどさまざまなクリエーションを体験する機会を設けた。計10回(参加人数延べ約160名)開催。

③ イベント

ミヨタヤードマーケットイベント開催

地域に開かれたフリーマーケットとライブパフォーマンスの一体型のイベントを開催した。

MIYOTA DESIGN WEEKEND

御代田また近郊、県外からのクリエイターが集い御代田を周遊しながら楽しめるデザインの展示・イベントを開催した。

事業効果

【目標・ねらい】

町のコンテンツづくりには単年で終わらない継続的な【機会・情報・場所】となる土壌づくり。

有形文化財の少ない御代田町において、人知的財を活かす土壌を醸成し、町の魅力づくりと活性化。

町の新しい関係人口を創出するための情報整理、場の創生、イベントの実施。

事業実施にあたって、御代田町教育委員会に後援を受け、御代田中学校、南・北小学校を中心に事業告知をはかり、また近隣市町村の教育機関へのチラシ配布など、さまざまな背景を持つ家族が参加できるように連携を図った。

【事業成果】

新型コロナウイルス以降の継続的なリモートワークや教育移住などもあり、またミヨタデザイン部や新規事業体が新しい活動や暮らしを実践していることもあり新規移住希望者が増え町の魅力は高まっている御代田町。

新規移住者にとっては、従来の地域の催しは地元交流の絶好の機会だが、いわゆる地方で慣例的に行われているもの以外の新しい選択肢を設けることを本事業の主旨として再認識することができた。

本年度は、町役場主導の会議などにも出席し、町ぐるみの催しとして意見交換できたことは、公益性のあるイベントとして提案できたことが大きな成果となった。それ故、町役場に訪れる新規移住者の窓口相談を、役場職員よりミヨタデザイン部メンバーへ紹介されることも増えた。

重点テーマでもある「移住・定住、つながり人口の増加に向けた取組の推進」として、移住者、新規移住者、移住希望者の方々がイベントに訪れ、御代田の暮らしや仕事、そしてコミュニティーのことなど熱心に話をする機会が見れた。

今後を見据えて、新規移住者およびその家族・子どもたちが年々成長するなかで、ミヨタデザイン部の活動を通して、アートやデザインに触れる様々な体験を重ね、個々にそして無意識下に根付いていくものであると実感している。そしてその子どもたちが地域に根ざして新旧の居住者とともに新たな町を創出する土壌をつくっていききたい。

【R5 年度の全体プログラム参加者人数の 10%である数値を移住者および移住希望者による参加数値の目標とし、また参加者アンケートを実施】

【アンケート結果】

(計 18 回実施 回答あり 13 回・アンケート回答者の割合のみ記載)
回答者 61 名のうち、県外からの参加者 21 名、新規移住者 30 名

【R4 年度終了時 2 月実績】

ミヨタデザイン部公式 note 閲覧者数 28,000 名、お気に入り 310 名
ミヨタデザイン部 Instagram フォロワー625 名
ミヨタデザイン部公式ライングループ 登録者数 121 名
ミヨタデザイン部ワークショップ参加人数 85 名
ミヨタデザイン部フリマ出店人数 21 組
ミヨタヤードマーケット(2 回開催) 来訪者 約 1000 名

【R5 年度終了時 目標数値】開催前目標

ミヨタデザイン部公式 note 閲覧者数 45,000 名、お気に入り 450 名
ミヨタデザイン部 Instagram フォロワー1500 名
ミヨタデザイン部公式ライングループ 登録者数 162 名
ミヨタデザイン部ワークショップ 参加人数 140 名
ミヨタヤードマーケット(1 回開催) 来訪者 約 1000 名
ミヨタデザインウィークエンド 来訪者 約 30,000 名

【R5 年度終了時 3 月実績】前年比 各メディア平均 60%増

ミヨタデザイン部公式 note 閲覧者数 57,711 名、お気に入り 776 名
ミヨタデザイン部 Instagram フォロワー1,149 名
MIYOTA DESIGN WEEKEND Instagram フォロワー1,081 名
ミヨタデザイン部公式ライングループ 登録者数 152 名
ミヨタデザイン部ワークショップ参加人数 144 名
ミヨタヤードマーケット(1 回開催) 来訪者 約 500 名
ミヨタデザインウィークエンド 来訪者 約 3,000 名

R5 年度の全体プログラム参加者人数の 10%である数値を移住者および移住希望者による参加数値の目標とし、また参加者アンケートを実施

アンケート結果

(計 18 回実施 回答あり 13 回・アンケート回答者の割合のみ記載)
回答者 61 名のうち、
県外参加者 21 名、新規移住者 30 名

- 参加者の5割が新規移住者であり、うち3割は5年以上在住、うち1割が新規移住者。
- 参加者の4割が県外からの参加者で、うち1割が移住を検討している方。

近年の移住者増加と我々ミヨタデザイン部の活動を聞いて訪れたという方も多く、このような移住者を中心とした新しい催しの満足度は80%と高く、次回も参加したいというフィードバックが多かった。

このことから、本事業の目的としていた移住者を対象とした「わたしたちの暮らしをつくる、私たちの暮らしをつなげる」という活動目標を達成できたと考えられる。

※詳細は別紙参照

今後の取組

R5年度の活動を通じて県内外のネットワークと通じることができたのは大きな成果であり、出会う方々には、「御代田の活動のお話をよく聞きます」と御代田の暮らしを各方面へ紹介することができた。

ミヨタデザイン部のメンバーとイベント関係者と今後の取り組みのディスカッションを重ねた結果、本イベント特にMDWEのような関係人口創出を目的とした大きなイベントを毎年実施するには、人的リソース（事務局協働メンバーや外部連動者）と地的リソース（外部を受け止める観光資源と宿泊・交通手段）などが不足しがちであり、また補助金申請と報告のタイミングが重なることもあり、かなり疲弊することがわかった。

この規模のイベントを2年に1回開催とすることで準備と調整、実施、報告までスムーズに行える見通しがたった。そこで、今後はイベント規模を下記のように計画する。

R5年度 拡散・プロモーション的な大規模イベント実施

（ミヨタデザイン部として2回目の長野県元気づくり支援金）

R6年度 広めた成果を深めるための小規模なイベントを実施予定

（ミヨタデザイン部として2回目の御代田町ふるさと納税支援金）

R7年度 慣例化のための本格的な大規模イベント（MDWE vol 2）を実施予定

（ミヨタデザイン部として3回目の長野県元気づくり支援金）

R8年度 広めた成果をさらに深めるための小規模なイベントを実施予定

（ミヨタデザイン部として3回目の御代田町ふるさと納税支援金）

自己評価【A】

【目標・ねらい】

- ①継続的な【機会・情報・場所】となる土壌づくり。
- ②人的財を活かす土壌を醸成し、町の魅力づくりと活性化。
- ③町の新しい関係人口を創出するための情報整理、場の創生、イベントの実施。

【理由】

- ①コロナ渦で集客とネットワーク作りが困難だったが、継続したことにより地元地域と県内外の他団体との交流、認知が約60%増加
- ②デザイン部メンバーのみならず、町内外のメンバーとの協働
- ③MDWEの開催により全国からの作家、来訪者による御代田の町内周遊イベント実施



令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	佐久市地域防災マップ作成支援事業
事業主体 (連絡先)	佐久市 (危機管理課 電話:0267-62-3008)
事業区分	(4)安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,445,000 円 (うち支援金 : 4,356,000 円)

事業内容

昨年度からの継続事業、今年度は、より避難時をイメージした地域防災マップを作成するため、過去の被災箇所や地域の危険箇所等の防災情報を地域の人自らが地域防災マップ” 書込むことに加え、安全に避難できるタイミングや周囲に避難の声掛けを行う地域や人をまとめたワークシートを作成しマップの有効性を高めた。

これらをもとに平時から防災対策や災害時の避難行動について考える講座や学習会を実施することで、地域における安全な避難行動について理解を深めることができた。完成した“地域防災マップ”は各区に配布し、公会場などへの掲示や地域の防災訓練などでの活用を呼びかけた。

事業効果

住民が主体となった地域防災マップ作りを通じて、地区の災害時の避難行動の指針の形成が図られただけでなく、事業の中で平時から防災に対する備えや災害時の避難行動について意見交換が行われ、地域独自の防災活動体制づくりが促進された。

また、昨年度までに地域防災マップを作成した地域などではマップを活用した防災訓練が開催されるなど、地域の防災に対する気運の高揚、地域の防災力の向上に繋がった。

- ・地域防災マップを活用した訓練実施区
R4年度 15区/53区 ⇒ R5年度 26区/53区

今後の取り組み

- ・“地域防災マップ”を作成した地域において、防災訓練や平時からの避難行動の指針にしてもらえ、また、あらたな防災情報がマップに書き込まれるように、出前講座などでマップの活用を呼びかけ、作成したマップが地域で継承されるように支援する。
- ・地域の消防団と区が地域の危険箇所を確認・共有する「さくの絆作戦」等とも結びつけ、マップが継続的に活用されるような仕組みづくりを推進する。
- ・来年度も令和元年東日本台風の被災箇所を中心に本事業を継続し、過去に発生した災害箇所の取りまとめ、今後、発生しうる災害に備えた地域の防災体制の整備を進め、市全体の地域防災力の向上を図る。



【学習会の様子】

【目標・ねらい】

- ①地域自らが作る災害時の避難行動に役立つ防災マップの作成
- ②マップ作成を通じた地域防災に対する意識の高揚、地域の防災活動体制強化。
- ③地域防災力の向上。

※自己評価【A】

【理由】

- ・住民主体で地域の防災対策を議論する場が創生できた。
- ・マップに書き込まれる情報がより多く、多岐にわたった。
- ・マップの作成済の地域において防災訓練などで活用されている

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	佐久市の小学生へ「防災ハンドブック」の配布事業
事業主体 (連絡先)	佐久市建設業協会 (佐久市望月 30-1)
事業区分	(4) 安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,420,000 円 (うち支援金 : 1,936,000 円)

事業内容

地域のインフラ整備をはじめ地域防災を支える佐久市建設業協会では令和元年東日本台風(台風19号)による災害を教訓に地域子ども達に地域に起こりうる自然災害を知り、有事の際に適切な行動をとることで、その被害を抑えることを目的とした「佐久市防災ハンドブック」を制作、佐久市内全小学生に配布し出前授業を行いました。



【出前授業の様子】

【目標・ねらい】

- ① 地域に起こりうる自然災害を知り、命を守る方法を学ぶこと
- ② 災害に備え準備するコトとモノを知り準備を促すこと
- ③ 正しい情報の集め方

事業効果

- ① 支援金を活用して市内の全小学生に防災ハンドブックを配布することができた
- ② 出前授業を実際に災害復旧した現場で実施 子どもたちに現場を体感してもらいながら地域の自然災害についての理解を深めてもらうことができた
- ③ 建設業の役割ややりがいを伝えることができ建設業に興味をもって頂けた

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・子どもたちに佐久地域の自然災害を学ぶ機会を提供できた
- ・将来の担い手確保につながる貴重な機会となった

今後の取り組み

今回制作した防災ハンドブックをデジタルブック等に展開し、子どもたちが持つタブレットでいつでも見れるようにしていきたい。引き続き地域防災に取り組む佐久市建設業協会として自然災害から命を守る取り組みを進めて参ります

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	生物多様性保全活動検証事業
事業主体 (連絡先)	佐久市 (環境生活課 電話:0267-62-2917)
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,671,341 円 (内支援金:2,137,000 円)

事業内容

市内の森林内の植物の種類や下層植生の低下が見られることから、植物の種類や下層植生の維持・回復を図ることで、持続可能な森林生態系の保全、及び生物多様性の保全を目指す。

- ・調査実験業務：6月～11月の期間で5回実施
望月協和地区で植生や動物の調査実験
- ・専門家会議：5月～2月の期間で5回開催
調査実験の検証、考察
- ・地元説明会：7月～2月の期間で3回開催
7/23 協西公民館 6名参加
10/16 協西公民館、調査地現場視察 16名参加
2/25 協西公民館 13名参加



【地元説明会 現場視察】

【目標・ねらい】

- ① 生物多様性認知度の向上
- ② 森林の現状把握・植生回復に向けた調査実験

事業効果

- ①R5.7月、R5.10月、R6.2月に地域住民を対象とした座学や現場視察など地元説明会を行い、参加者にアンケート調査を行った。R5.7月は「生物多様性」の認知度は56%、R6.2月は62%と認知度が6%向上した。
- ②調査地の森林内の植物はシカの影響を受けていることや植物の種数が減少傾向であることが推定された。植生回復に向けて調査地内の11地点に植生回復柵を設置したところ11地点のうち6地点で植物の回復が確認できた。

※自己評価【B】

【理由】

- ・本事業を通して、地域住民の生物多様性に対する認知度や理解度が向上した。
- ・本年度行った調査実験を検証し、森林内の現状把握、植生回復に向けた効果的な対策が検討できた。

今後の取り組み

- ・ 野生動物や環境保全の専門家による市民向けの講座や説明会など啓発活動を実施することで、生物多様性の認知度・理解度の向上を図るとともに地域の森林の有用な活用方法等を検討し、実行していくことで地域活性化につなげていく。
- ・ 森林下層植生の衰退を防ぐために、効果的な植生回復対策を検討していく必要がある。調査結果を基に、森林下層植生が残っている場所については、植物の成長を促し、根を張らせるため、植生回復柵の設置を検討していく。
- ・ 先進的で高度な有害鳥獣の捕獲技術を習得するとともに森林内の生物多様性、生態系を理解した捕獲従事者育成を目指した講座を実施し、効果的なシカの頭数調整につなげていく。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	高峰植生調査 ―高山植物の保全とブランド化に向けて―
事業主体 (連絡先)	NPO 法人 浅間山麓国際自然学校 (小諸市 高峰高原 高峰高原センター内)
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	932,710 円 (うち支援金 : 746,000 円)

事業内容

- ① 高峰山の登山道・ゲレンデの植生調査
6月～8月の期間のなかで計5回、高峰山登山道と高峰マウンテンパークスキー場(第1ゲレンデ)の調査を行う。
- ② エクスカーションの実施
高峰高原の花に詳しい専門家を招いた植物観察ツアーを行い、地元の方々に保全活動の意義や高山植物の面白さを感じてもらおう。7月22日、8月19日の2回実施。のべ参加者23名。
- ③ 花のパンフレット作成
調査の結果をもとに高峰高原の花をまとめたパンフレットを作成し、周辺施設に配布。



【エクスカーションの様子】

【目標・ねらい】

- ① 高峰高原に生育する植物の現状把握
- ② 自然への興味関心を引き出すとともに、実際に行動できる人を増やす
- ③ 高峰高原を訪れる観光客の増加

※自己評価 【 B 】

【理由】

- ・ 資料が集まったことで、高山植物保全のための具体案が立てられるようになった。
- ・ 来年度の事業の為の土台作りが出来た。

事業効果

- ① 今回の植物調査では、10年前と比べてとても大きな変化はなかったものの、遷移による環境変化やシカの食害により数が減っている種や消滅した種があることが分かった。調査結果は報告会を開催し周辺施設や環境省と共有・意見交換を行った。
- ② 保全活動の意義や高山植物の面白さを感じてもらおうためにエクスカーションを2回実施し、延べ23名の参加があった。目的の1つだったインタプリターへ(自然ガイド)の勧誘は人前で喋るのが苦手・自信がないという理由で達成することが出来なかった。育成には複数回参加することで交流が深まり、自信にもつながるような継続的な研修計画が必要だと思われる。
- ③ 花のパンフレットの配布は令和6年3月～のため、本事業が増加の原因になったことは考えづらいが、高峰高原ビジターセンターのグリーンシーズン来場者数は前年令和4年度と比べ、約30%増加していた。コロナが明けて外に出られるようになり、需要が高まっていると推察される。来年度以降はこの客層に「花の高峰」をPRしていくことで、より事業効果が得られるのではないかと期待できる。

今後の取り組み

来年度以降はモニタリング調査・人材育成のための研修、製作したパンフレットを使った一般向けの花観察イベントの他、黒斑山など新たな登山道の植生調査、鳥類・哺乳類調査を計画しており、最終的な目標として高峰高原の自然をすべてまとめたハンドブックの作成を計画している。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小さな村のSDGs事業
事業主体 (連絡先)	常和区 (佐久市常和1728)
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	487,124円 (うち支援金: 345,000円)

事業内容

地球規模での目標であるSDGs社会の実現に向け、身近な地域から取組みを始める。

- ふるさと環境の再生・活用
 - 地域エネルギーの自給プロジェクト
木質バイオマスの利活用 (住民協働の薪づくり)
 - 里山景観の再生プロジェクト
荒廃里山、耕作放棄地の整備
- 持続可能な地域づくり
 - 交流促進プロジェクト
フットパスの整備、イベント開催
 - 広報・情報発信プロジェクト
地域広報紙の発行



事業効果

- 森林づくり勉強会の開催や里山景観の整備 (耕作放棄地の再生) に多くの地域住民が参加し、ふるさと環境の再生・活用について住民意識向上のきっかけをつくることのできた。
- 交流拠点である「憩いの広場」周辺におけるフットパスの整備や再生した耕作放棄地でのイベント開催 (自主事業) により、地域の活性化を図るとともに里山活用について新たな方向性を生み出すことのできた。

【目標・ねらい】

SDGs社会の実現

- ふるさと環境の再生・活用
- 持続可能な地域づくり

※自己評価【 B 】

【理由】

・事業効果はおおむね予定どおりと評価するが、より多くの賛同・住民参加を得る工夫・取組みがさらに必要

今後の取り組み

- 本事業により今後の地域づくりの方向性についてヒントを得ることができた。
「里山の維持・活用」を柱とした新たな地域づくりに向け、活動を継続していきたい。
- 今回整備した交流拠点 (ツツジ園、憩いの広場) を活用して、より多くの人が集り、楽しんでもらえるようなイベントを継続していきたい。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	有機堆肥で環境に優しい農作物作り
事業主体 (連絡先)	山の中ガーデン小径 (長野県佐久市根々井405-7)
事業区分	(5) 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	429,823 円 (うち支援金: 343,000 円)

事業内容

気候変動を抑制する環境再生型農業の実践によりカーボンニュートラルを目指すため環境に優しい農作物作りを実践。

- 有機堆肥で環境に優しい農産物作りコンテスト
6月～8月土づくりと野菜・大豆作りを行ない育てた野菜で我が家の味を給食にをテーマにレシピを考えコンテストに参加。賞をもらったレシピ2品が佐久市の給食7000食提供された。今年は主に大豆づくりと大豆を使った料理作りや味噌づくりを中心に活動を行なった。
- フランスの給食講演会&ワークショップ
オーガニック給食を成功させた講師から給食レシピを学ぶ。環境に優しい農作物作りをどのように給食に取り入れることができるか。簡単で美味しい調理の仕方や調味料の選び方を学んだ。
- 微生物農法を学ぶお話会とぼかしづくり
科学肥料を使用しなくても元気な野菜が育つ微生物農法について学びながら、実際にぼかしづくりを体験し、春から微生物農法をはじめたいという意識が高まった。



【学校畑活動・脱穀機の使い方】

【目標・ねらい】

- ① 環境に優しい農作物作りの参加者を増やしカーボンニュートラルの取組を増やす。
- ② 食と農への関心や知識を深め、意識を高める。
- ③ 環境について考え実践していく人を増やす。

事業効果

- 有機堆肥で環境に優しい農作物作りは前年比で60%増、コミュニティや個人で参加する人が増えたことと、参加校も2校になり子どもから大人まで多世代に環境について考えることと食の大切さや調理の楽しさを伝えることができた。
- フランスの給食講演会とワークショップでは給食のプロフェッショナルである先生方から野菜を美味しく調理する方法や調味料の大切さを学び家でもすぐ作ってみたいという参加者が多かった。
- 微生物農法のお話会では本当に化学肥料を使わないで野菜栽培ができるのか？という参加者の疑問に丁寧に答えながら栽培の仕方も教えていただき、ぼかしづくりがとても楽しい経験にもなって参加者の畑活動への意欲につながった。

※自己評価【 A 】

【理由】

環境に優しい農作物作り人口が増加し、参加校も2つになり、さらに増える見込みであること。畑講習やコンテスト、お話会やワークショップを通して参加者の知識や意欲が高まり今後の環境活動へと繋がりや広がりを見せている。

今後の取り組み

講習や講演会、お話会などに参加された方たちは、春から環境に優しい農法で畑をはじめたいという意欲があり、申込みを受け付けている状態で4月から5月頃にはコミュニティ、学校、個人の畑で環境に優しい農作物栽培の準備を行なっていく予定。

畑から台所へ、畑から給食へ、というコンセプトで畑活動だけでなく、調理や食育講習も活発に行い食農教育を充実させていきたい。

給食コンテストでは、実際に佐久市内の給食に提供された実績を元にさらに参加児童を増やしながら給食レシピを考えることで食に興味を持ち、食の大切さを多くの児童と親御さんに知ってもらおう機会としていきたい。

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	大日向小学校 断熱 DIY ワークショップ事業
事業主体 (連絡先)	学校法人茂来学園 大日向小学校 (南佐久郡佐久穂町大日向1110)
事業区分	(5) 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,198,600 円 (内支援金: 375,000 円)

事業内容

旧佐久東小学校の校舎を活用して令和元年に開校した大日向小学校は教室にエアコンがなく、児童からは夏の暑さを軽減するためにエアコンの設置の要望が挙がっていた。保健室においては、梅雨時期から湿度が高く、体調不良の児童が十分に休めないことが問題になっていた。

そこで、保護者と教職員を中心に保健室の断熱を DIY で行うことで、夏は家庭用のエアコンでも快適に過ごせること、冬の暖房効率も高めることを目指した。合わせて事前の勉強会と事後の報告会を開催し、住民が自らできる脱炭素対策、学校や住まいの快適化について学ぶ機会を作った。

- ・断熱勉強会 4月21日実施 約70名参加
- ・断熱 DIY 4月29、30日実施 述べ約50名参加
- ・断熱 DIY 報告会 10月22日実施 約20名参加

事業効果

- ① 夏休み中の計測により、家庭用のエアコンでも保健室の室温および湿度が十分に下がり、他の教室よりも快適に保たれることが確認できた。
保健室が去年より快適になった(児童74.2%、教職員100%)、断熱を行ってよかった(児童62.3%、教職員100%)という評価を得られた。
- ② 勉強会参加者アンケートにて、100%が「断熱の重要性が分かった」と回答。「自宅の断熱に取り組んでみたい(自分の手で)」に65.9%、「自宅の断熱に取り組んでみたい(専門家や業者に依頼して)」に61.0%が「はい」と回答し、「断熱障子からやってみる」というコメントが2件、勉強会後に主催者に相談があり自宅に内窓を取り付けた参加者も1名いた。
- ③ 広報効果
新聞掲載(新建新聞 2023年4月5日、信濃毎日新聞 2023年5月10日)



【DIY ワークショップの様子】

【目標・ねらい】

- ① 学校保健室の環境改善
- ② 学校関係者、地域住民の知識と意識の向上
- ③ 広報効果

※自己評価 【A】

【理由】

- ・ 保健室の環境が改善され、猛暑で体調を崩した児童が休める場所となった。10月の段階で昨年より暖かいという声が聞かれた。
- ・ 勉強会には想定の1.7倍程度の地域住民が参加し、住まいの断熱に関する具体的な質疑応答などもなされ、知識と意識の向上につながった。
- ・ 新聞等で参加者以外にも活動の価値が伝えられた。

今後の取り組み

保健室の断熱の効果が感じられたことから、教職員や児童からは他の教室も改善したいとの声があがっている。2024年度以降も学校全体の環境改善や、学校運営におけるCO2排出削減の方法について地域住民と共に検討を続ける。その一貫として、太陽光発電や佐久穂町に整備予定の小水力発電などの自然エネルギーの仕組みや可能性等について子どもたちとも学んでいきたい。これらの活動を通じて得られた知見や環境に対する意識は、地域住民の日常生活にも波及していくと考えられる。